

From New York

Vol.15

世界の街の“今”を、現地からお届けします

文/プレミアムワイン株式会社 (<http://premiumwine.co.jp>)

2011年6月24日、同性カップルの結婚を認める州法が成立したニューヨーク。

同性カップルにも異性カップルと同等の法的権利、社会保障、そして尊厳が与えられたことを祝い、法制化の2日後、6000人も同性愛者達が集まり「ゲイ・プライド・パレード」が行われました。

パレードにはブルームバーグ、ニューヨーク市長とクオモ州知事、そして自ら同性愛者であることを公表し、同性婚実現に向けてロビー活動を行っていた、クリスティン・クイン市会議長の姿もありました。

またニューヨークのシンボルであるエンパイアステートビルは同性愛者の象徴であるレインボーカラーにライトアップされ、ニューヨーク証券取引所でもレインボーフラッグがはためいており、ニューヨークの街を挙げて、この合法化をお祝いしたのです。

同性愛者達が公に社会的地位を確立し、法的にプロテクトされることとともに、ニューヨークにもたらされる経済効果は非常に大きく、この算入も非常に喜ばしいこととされています。

今後の3年間で約2万組以上のニューヨーカーが結婚すると見込まれており、またゲイの婚姻が認められていない州からも5万組近いカップルがニューヨークで婚姻するだろうと発表されました。

2009年の会計監査の報告によると、合法化によってニューヨーク州にもたらされる3年間の収益は210億ドルと見積もられ、2011年現在は178億ドルに変更されましたが、健康保険の収益は69億ドル、そして結婚式に伴うパーティー、ギフト、旅行等の経済効果も期待されています。

ニューヨークの観光促進に積極的なブルームバーグ市長はニューヨーク市観光協会のNYC & Companyを通じて「NYC I DO」キャンペーンを行うと発表し、新郎新婦が教会で牧師の前で言う誓いの言葉である「I do」を、エンパイアステートビルでもコニーアイランドでもロマンティックな場所で「I do」と言って欲しいと述べています。

またニューヨークを代表するブランド、ティファニーや高級デパートメントを始め、ウェディングギフトで人気のウィリアムズ・ソノマなどは、すでにゲイカップルに向けての商戦を図り、マンハッタン、56丁目に位置する高級ホテル、ル・パーカー・メリディアンでは「Love Has No Boundaries/Born This Way」（愛に国境はない/生まれてきたままで）といったウェディングキャンペーンを展開し、費用は招待客100人の結婚式とレセプションで2万5000ドルといったパッケージを用意しました。

今後ますます、巨大なマーケットとなる同性婚合法化に関するビジネスは広がっていくでしょう。

